

令和6年度 磐田市立豊田南中学校 学校評価書

重点	目標・取組(項目)	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学校経営の視点		保護者は、学校が目指している子供の姿や教育内容について知っているか。	A	○93%(昨年度92%)の保護者が肯定的に回答している。 ※昨年度より、学校行事や参観会など、予定通り行うことができた。また、各種たよりやホームページ、コドモンなどを通じて、日々の学校の様子を発信することができた。引き続き保護者に御理解いただけるよう、情報発信に努めていく。また、連絡ツールアプリ「コドモン」や閲覧板等を有効に利用して「学校応援サポーター」を保護者を含めた地域にも発信していく。 ○83%(昨年度92%)の保護者が肯定的に回答している。また、96%(昨年度97%)の生徒が「先生は自分のことを理解してくれる」と回答している。 ※生活記録「視点」や明るい学校生活を送るためのアンケート(年5回)、自分の心の中の絵を描く「心の天気」、教育相談(年3回)、レジリエンス授業(年3回)を有効に活用し、生徒一人一人の内面理解を引き続き丁寧に行っていく。	○各種の情報発信により、高いレベルで保護者と学校側が認識を共有している。情報内容についても、分かり易く、細かく、要約されたものであったと推察できる。地域としても、生徒さんたちに興味をもっていただける活動及び情報を提供していくので、今後このレベルが維持できるようにお願いしたい。2 ○HPやコドモンのおかげで学校の様子がわかり、教育内容も浸透しているのかと思う。5 ○90%以上の保護者が評価している。継続して行ってほしい。2 ○先生方がいかに生徒たちに寄り添っているかがよくなる。2 ○各種行事が形態を少しも変え、コロナ禍前に戻ったことで学校とのふれあいが増えたと感じる。2 ●HPを見ていただけるように、学校だより「HPにも様子を載せています」と頻りに記載するのがよい。 ●HPにたくさん写真を載せてほしい。 ●「学校応援サポーター」を地域で閲覧しているが、関心が薄いように思われる。交流センターを巻き込んでの活動につなげていけたらよいと思う。
		先生は子供のことを理解して指導にあたっているか。	A	○89%(昨年度91.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○83.5%(昨年度80.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○89.5%(昨年度87.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ※1人1人端末等のICT機器を有効に活用するとともに、教職員は「主体的に学習」に取り組む生徒の育成を研修テーマに授業改善に力を入れている。その基盤となる落ち着いた授業の雰囲気などが、この結果に表れていると思われる。引き続き、生徒の内面理解を基盤とし、他者と協働的に学習に取り組む場面の設定、単元を見通した授業設計、そして生徒が主体的に取り組む授業となるように取り組んでいく。また、来年度から「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業を2年間行うことになった。少しでも生徒にとってプラスになるように取り組んでいく。	○個体差があるなかで、「誰一人取り残さない教育」を実現するのは大変なことだと思う。CPIに考えをまとめることはできても、それを分かり易く相手に伝えるには相手の立場に立った会話ができるかどうかだと思う。中学生になると家庭での会話も減ってくると思うが、地域も含めて会話のある社会になればと思う。 ○誰一人取り残さない教育の実現に向けた授業づくり、ハードルは高いかと思うが、とても素晴らしい取組だと思う。4 ○PCを有効に活用した授業をされたより、子供のICT活用技能は非常に高まっていると思う。非常によいICT教育ができていると思う。2 ○グループワークや地域での学習など取組により、他者の考えを知り自分の考えを伝えること、他者の考えを尊重することなどを行うことで、学級や生徒たちの雰囲気よくなっていくことにつながっていくと思う。 ○学年が若いほど授業に活気があり、学年が上がるほど落ち着いた授業の雰囲気だった。 △PCを使うことで、学習意欲が向上している反面、人の意見交換が減っているということはないのか。 ●先生方から見て教材研究の時間は十分れているか。 ●書き取りやプリント学習と違い、授業での家庭学習は保護者にとっては何をやっているのかわからないのかと思う。普段の宿題やテスト勉強など○は増えたり減ったりしているのか。 ●端末等のICT機器を活用した授業風景を一度見学したいと思っている。 ●「進んで学習できているか」について肯定率が低いので、自ら学習に向き合うことが必要だと感じた。
よくわかる授業の実践		生徒は、授業で学習した内容がわかっているか。	B	○89%(昨年度91.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○83.5%(昨年度80.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○89.5%(昨年度87.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ※1人1人端末等のICT機器を有効に活用するとともに、教職員は「主体的に学習」に取り組む生徒の育成を研修テーマに授業改善に力を入れている。その基盤となる落ち着いた授業の雰囲気などが、この結果に表れていると思われる。引き続き、生徒の内面理解を基盤とし、他者と協働的に学習に取り組む場面の設定、単元を見通した授業設計、そして生徒が主体的に取り組む授業となるように取り組んでいく。また、来年度から「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業を2年間行うことになった。少しでも生徒にとってプラスになるように取り組んでいく。	△普段の生徒とのかわかりで、個別にアドバイスをすることはあるか。 ○生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を持たせるには、なぜ進んで学習を必要があるのかを生徒さん及び保護者の方に分かっていただく必要があると思う。自己肯定感をもたせるには、学校、家庭、社会が一体となって学習を促していくことが大事なのではないかと思う。 ○中学校生活ではいろいろな経験ができるような取組がされていく本当にありがたい。 ○生徒一人一人が将来の目標を見つけ出し、それに向かって勉学に励むような方向に指導できれば最高だ。 ○自分の進路や将来の生き方への考えが学年による差と低学年ほど低いのは妥当と考える。 ○年3回のレジリエンス授業は大変よい取組だと思う。あきらめず取り組む心を贈られるように取組を継続していただきたいと思う。2 ○いろいろな職種の方の職業体験等で、仕事を身近に感じたり、将来の目標をもつようになるきっかけになった。 ●将来のことや進路については、決めなくてはいけないので決めづらいの認識の子供が多いように感じる。 ●生徒たちが自分らのストレス発散方法を見つけ、少しのことでは折れない心をもってほしい。 ●目標に向かう姿勢の自己評価が低下している理由が何か。今までのやり方より別の方法が必要である。 ●進路調査で将来のことは子供と話し合うので把握できるが、学期の目標など目の前の目標は把握できないため、「あきらめずに取り組んでいる」のかわからないと思う。 ○三学期の進路相談会等で話し合いに出すのもいいかと思う。 ●中学生という時代をみて、主体的に自分た行動を求めている少々確しいところもある。 ●生徒たちが自己肯定感を高めることが大切だと考える。幼少期の自己肯定感が小、中学校と学年が進むにつれ、低くなっていくようである。どうしても学習面に重点が置かれることで、自信をなくしていく生徒が増えていくのではないか。学習面以外で自己肯定感が高まる場面や経験が必要で、人間力を身に付けて自分で考えて判断できる人になれるように思う。 ●特別支援教育を含め、学校での様々な生徒育成の手立てを継続し、深化拡充していただきたい。 ●母体を含めた社会情勢に配慮しながら、中学生に影響力があるのではないかと。 ○入試ではなく、生き方を考えるように、各学年の進路学習や総合的な学習の時間を充実したものにしてほしい。
		生徒は、進んで学習しているか。	B	○89%(昨年度91.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○83.5%(昨年度80.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○89.5%(昨年度87.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ※1人1人端末等のICT機器を有効に活用するとともに、教職員は「主体的に学習」に取り組む生徒の育成を研修テーマに授業改善に力を入れている。その基盤となる落ち着いた授業の雰囲気などが、この結果に表れていると思われる。引き続き、生徒の内面理解を基盤とし、他者と協働的に学習に取り組む場面の設定、単元を見通した授業設計、そして生徒が主体的に取り組む授業となるように取り組んでいく。また、来年度から「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業を2年間行うことになった。少しでも生徒にとってプラスになるように取り組んでいく。	
		コンピュータで自分の考えをまとめたり、わかりやすく相手に伝えたりすることができるか。	B	○89%(昨年度91.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○83.5%(昨年度80.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○89.5%(昨年度87.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ※1人1人端末等のICT機器を有効に活用するとともに、教職員は「主体的に学習」に取り組む生徒の育成を研修テーマに授業改善に力を入れている。その基盤となる落ち着いた授業の雰囲気などが、この結果に表れていると思われる。引き続き、生徒の内面理解を基盤とし、他者と協働的に学習に取り組む場面の設定、単元を見通した授業設計、そして生徒が主体的に取り組む授業となるように取り組んでいく。また、来年度から「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業を2年間行うことになった。少しでも生徒にとってプラスになるように取り組んでいく。	
伝え合い学び合う力の育成(自ら学ぶ)		生徒は、自分の進路や将来の生き方について考えを持っているか。	B	○83.5%(昨年度は84.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ※1年79.5%、2年92.5%、3年90.5%と学年間で意識の差がある。高校入試ではなく、生き方を考えていくように、各学年の進路学習や総合的な学習の時間を充実したものにしてほしい。 ○89.5%(昨年度89.5%)の生徒が肯定的に回答している。69%(昨年度74%)の保護者が「目標をもち、よりよくなる」と答えている。人間関係づくりを大切にしている」と肯定的に回答をしている。82%(昨年度95.5%)の教師は肯定的に回答している。 ※年3回レジリエンス授業を行っている。しなやかなくましさ、一度気持ちが落ち込んでも、できるだけ早く回復していくための心のもち方等を、今後も生徒に身に付けさせていく。さらに来年度以降も、生徒が主体的に参加していく機会を、行事や生徒会活動等の特別活動の中で機会を作っていく。	△普段の生徒とのかわかりで、個別にアドバイスをすることはあるか。 ○生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を持たせるには、なぜ進んで学習を必要があるのかを生徒さん及び保護者の方に分かっていただく必要があると思う。自己肯定感をもたせるには、学校、家庭、社会が一体となって学習を促していくことが大事なのではないかと思う。 ○中学校生活ではいろいろな経験ができるような取組がされていく本当にありがたい。 ○生徒一人一人が将来の目標を見つけ出し、それに向かって勉学に励むような方向に指導できれば最高だ。 ○自分の進路や将来の生き方への考えが学年による差と低学年ほど低いのは妥当と考える。 ○年3回のレジリエンス授業は大変よい取組だと思う。あきらめず取り組む心を贈られるように取組を継続していただきたいと思う。2 ○いろいろな職種の方の職業体験等で、仕事を身近に感じたり、将来の目標をもつようになるきっかけになった。 ●将来のことや進路については、決めなくてはいけないので決めづらいの認識の子供が多いように感じる。 ●生徒たちが自分らのストレス発散方法を見つけ、少しのことでは折れない心をもってほしい。 ●目標に向かう姿勢の自己評価が低下している理由が何か。今までのやり方より別の方法が必要である。 ●進路調査で将来のことは子供と話し合うので把握できるが、学期の目標など目の前の目標は把握できないため、「あきらめずに取り組んでいる」のかわからないと思う。 ○三学期の進路相談会等で話し合いに出すのもいいかと思う。 ●中学生という時代をみて、主体的に自分た行動を求めている少々確しいところもある。 ●生徒たちが自己肯定感を高めることが大切だと考える。幼少期の自己肯定感が小、中学校と学年が進むにつれ、低くなっていくようである。どうしても学習面に重点が置かれることで、自信をなくしていく生徒が増えていくのではないか。学習面以外で自己肯定感が高まる場面や経験が必要で、人間力を身に付けて自分で考えて判断できる人になれるように思う。 ●特別支援教育を含め、学校での様々な生徒育成の手立てを継続し、深化拡充していただきたい。 ●母体を含めた社会情勢に配慮しながら、中学生に影響力があるのではないかと。 ○入試ではなく、生き方を考えるように、各学年の進路学習や総合的な学習の時間を充実したものにしてほしい。
		生徒は、目標をもち、よりよくなろうとあきらめずに取り組んでいるか。	B	○83.5%(昨年度は84.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ※1年79.5%、2年92.5%、3年90.5%と学年間で意識の差がある。高校入試ではなく、生き方を考えていくように、各学年の進路学習や総合的な学習の時間を充実したものにしてほしい。 ○89.5%(昨年度89.5%)の生徒が肯定的に回答している。69%(昨年度74%)の保護者が「目標をもち、よりよくなる」と答えている。人間関係づくりを大切にしている」と肯定的に回答をしている。82%(昨年度95.5%)の教師は肯定的に回答している。 ※年3回レジリエンス授業を行っている。しなやかなくましさ、一度気持ちが落ち込んでも、できるだけ早く回復していくための心のもち方等を、今後も生徒に身に付けさせていく。さらに来年度以降も、生徒が主体的に参加していく機会を、行事や生徒会活動等の特別活動の中で機会を作っていく。	
かかわり合いの深い集団の育成(共に生きる)		学級(学校)には、互いにルールを守り協力する雰囲気があるか。	A	○94%(昨年度90.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ○90.5%(昨年度94%)の生徒が肯定的に回答している。 ○88.5%(昨年度90.5%)の生徒が肯定的に回答している。 ※一人一人が安心・安全な学校生活を営むために、多くの生徒が自分以外の他者のことを考えた言動を取っていると思える。人間関係づくりを大切に他者の良い面を認めてくれるよう、教育活動の中で機会を逃さず支援していく。	△「誰一人取り残さない教育」はどういったものか。3 ○学校の雰囲気はともいたいと思います。3 ○生徒の心に寄り添うサポートを継続していただきたい。2 ○一人一役で学級に自分が必要なんだと思える学級づくり、雰囲気がよくなるような人間関係づくりを大切にしたい。取組に感謝している。他者のよい面を見つけ、それを伝えていくような取組を期待する。 ○ルールは守っているが、悩み事を相談できる人がいない生徒が多いのが気がかりです。社会にしない大人にならないように、共生する気持ちや育むことも、また、学校を楽しいと感じるにはどうすればいいか、難しい課題だと思います。 ○いつも相談してもなかなか相談しづらいと思うので、教育相談の回数を増やして相談しやすい環境をのめりたいと思います。2 ●雑談の中で解決できる事柄が多くあります。そういう自由時間の確保も大切だと思います。 ●生徒が「学校が楽しい」と感じる自己評価が下がっている中、「誰一人取り残さない教育」の実現はなかなか難しいのではないかと感じる。 ●スマホやSNSでのやりとりは、目につかないので観て把握しきれない。
		生徒は、悩み事を相談できる人が学級や学校にいるか。	B	※問題の早期発見、早期対応はもちろんのこと、しっかりと一人一人の生徒の心に寄り添い、内面理解に努めていく。来年度から「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業を2年間行うことになった。少しでも生徒にとってプラスになるように取り組んでいく。	
		生徒は、学校が楽しいと感じているか。	B	※問題の早期発見、早期対応はもちろんのこと、しっかりと一人一人の生徒の心に寄り添い、内面理解に努めていく。来年度から「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業を2年間行うことになった。少しでも生徒にとってプラスになるように取り組んでいく。	
健やかでつよい心身の育成(心豊か)		生徒は、あいさつや返事がしっかりできるか。	A	○97.5%(昨年度97%)の生徒が肯定的に回答している。「お子さんはあいさつや返事が身に付いている」に肯定的な回答をされた保護者の方も89%(昨年度88%)と多い。 ※今後も、あいさつが活発に交わられる学校を目指し、生徒会を中心に南中賛歌の「美しくあいさつについて考え、実際の姿として表せるようにしていく。学府あいさつ運動では、学府の小学校を巻き込み、学府全体で美しくあいさつ」を考えていく。また、授業や地域でのあいさつなどにも力を入れていく。 ○86.5%の生徒が肯定的な回答をしている。南中賛歌の「明るく歌声」では、今年度より余額など儀式的な行事で校歌を歌う機会を設定した。合唱コンクールでは昨年度より校歌をしっかりと歌おうという生徒が多かった。 ※儀式的行事等、校歌を歌う機会を今後増やしていき、校歌を堂々と歌うことで愛校心を育てていく。 ○80%(昨年度78%)の生徒が肯定的に回答している。 ※朝清掃ボランティア等、進んで他者のためになることを素直な気持ちで行うことができる生徒がとて多い。学校運営協議会主催の学校応援ボランティアの大人の姿を見せることもしていきたいが、生徒の活躍の場を地域、校内ともに広げていき、見返りを求めない奉仕の心をさらに育てていく。	○合唱コンクールでの校歌の全校合唱はとても感動した。2 ○挨拶はともできて思う。2 ○地区の挨拶運動の当番の際に、顔を上げて挨拶できる生徒が増えたと感じた。2 ○挨拶に関しては今まで通り小学校を巻き込んで活動してほしい。2 ○地域にとって中学校は宝であり、貴重な戦力と思っている。 ○学校外で地域防災訓練や地域ふれあい祭りなどでボランティアをする中学生をよく見かけた。 ○「挨拶」は人間関係構築の基本である。よき挨拶ができると、常々感じている。小、中学校共に「挨拶運動」を重要視してほしいと思う。 ○市のボランティアに参加したこと、役に立って楽しさ、人とふれあう面白さを感じることができたと思う。 ○積極的にボランティアに参加する姿をみると素晴らしいと思う。様々なボランティアに参加することで、広い視野をもてる子供になることを期待する。 △学校教育目標の「いのちの教育」の推進 自ら鍛える態度の育成について具体的にどのように捉え理解しているか。 ●あいさつを身に付けるには小学生の時から、また、学校だけでなく家庭や地域が一体となって取り組む必要があると思う。ボランティア活動については、内申書や親から言われたらやるのではなく、自主的に参加したくなる魅力的な活動を地域では考えとともに、学校側でも生徒にこのような機会があるということを知りたい。 ●学校外での活動にも参加する機会を地域でも増やすよいのではないか。2 ●ボランティア活動への参加者の増加、または地域活動への参画も期待する。 ●挨拶は校内の限られた環境で行われているようであるが、校外では実際のところ十分とは言えないと思う。
		生徒は、校歌を堂々と歌うことができるか。	A	○97.5%(昨年度97%)の生徒が肯定的に回答している。「お子さんはあいさつや返事が身に付いている」に肯定的な回答をされた保護者の方も89%(昨年度88%)と多い。 ※今後も、あいさつが活発に交わられる学校を目指し、生徒会を中心に南中賛歌の「美しくあいさつについて考え、実際の姿として表せるようにしていく。学府あいさつ運動では、学府の小学校を巻き込み、学府全体で美しくあいさつ」を考えていく。また、授業や地域でのあいさつなどにも力を入れていく。 ○86.5%の生徒が肯定的な回答をしている。南中賛歌の「明るく歌声」では、今年度より余額など儀式的な行事で校歌を歌う機会を設定した。合唱コンクールでは昨年度より校歌をしっかりと歌おうという生徒が多かった。 ※儀式的行事等、校歌を歌う機会を今後増やしていき、校歌を堂々と歌うことで愛校心を育てていく。 ○80%(昨年度78%)の生徒が肯定的に回答している。 ※朝清掃ボランティア等、進んで他者のためになることを素直な気持ちで行うことができる生徒がとて多い。学校運営協議会主催の学校応援ボランティアの大人の姿を見せることもしていきたいが、生徒の活躍の場を地域、校内ともに広げていき、見返りを求めない奉仕の心をさらに育てていく。	
		生徒は、ボランティア活動に積極的に参加しているか。	B	※朝清掃ボランティア等、進んで他者のためになることを素直な気持ちで行うことができる生徒がとて多い。学校運営協議会主催の学校応援ボランティアの大人の姿を見せることもしていきたいが、生徒の活躍の場を地域、校内ともに広げていき、見返りを求めない奉仕の心をさらに育てていく。	

<学校関係者評価を受けてのまとめ>  
 ○HPやコドモンのおかげで学校の様子がわかること、保護者からは好評であった。しかし、個人情報の観点から今後HPの取り扱いについても考えていかないといけない。例えば、本校の保護者のみ閲覧できるようにPWをかけるなどの工夫が必要になってくるかもしれない。  
 ○PCを持ち帰り使っているが、保護者からすると本当に勉強に使っているのか保護者には見えにくい。また、本当に一人一台端末が教育に有効であるのか、わからない。学校として授業などでは学習で活用しているが、保護者にはどのように使っているのか、伝わっていないと感じた。HPなどで保護者や地域に向けて情報を発信して行かなければいけないと感じた。  
 ○スマホやSNSのやりとりも保護者にはわからない。子供を信じるしかないが、SNSのトラブルもよく聞く。情報モラル講座の内容について、自分ごととして考えていけるようなものにしてほしい。  
 ○一人一役など自分が学級に必要なのだと思える学級づくり、雰囲気やよくなるような人間関係づくりを大切にしたい取組を充実させていくことで、学校が楽しいと感じる生徒が多いと考えられる。さらに、悩み事などを気軽に相談することができるように、機会の設定、雰囲気作りなど考えて取り組んでいきたい。  
 ○「挨拶」の評価は高かったが、地域では学校内ほど活発にできるよう感じない。挨拶だけではないが、学校内だけで終わらせず、是非地域でもしっかりできると言われるようになってほしい。そのため、生徒が何事にも主体的に取り組むように、まずは授業や特別活動の取組が自分ごととなるように場の設定や内容等を考えていく。